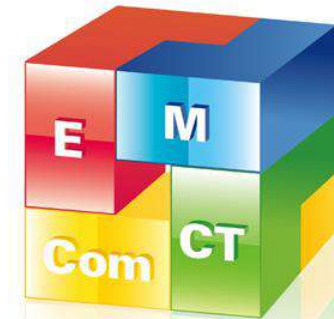


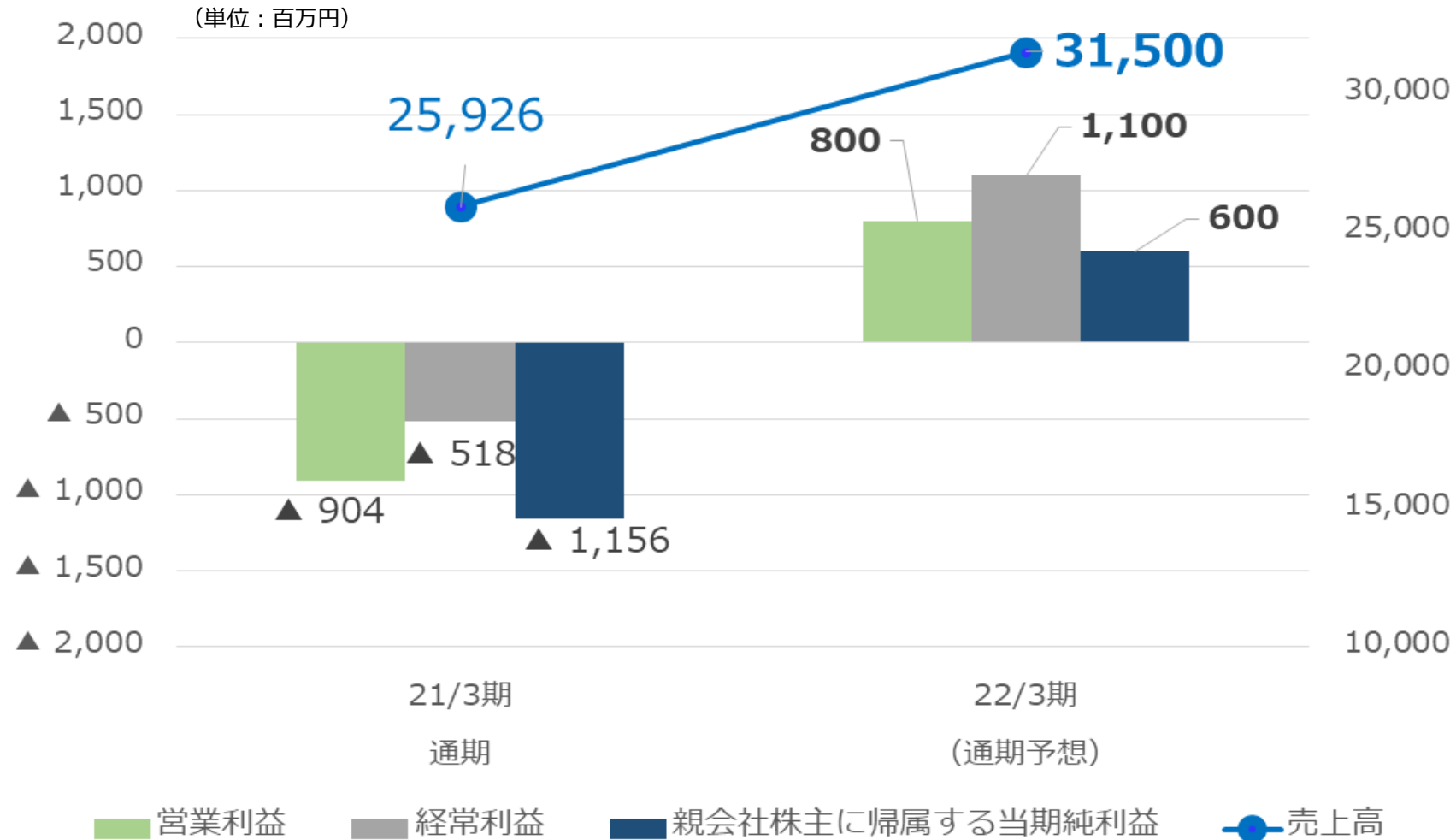
2021年3月期 連結決算説明資料

*NEW*オリジン*NEW*ステージ



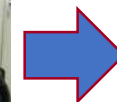
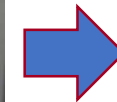
2021年5月25日
株式会社オリジン
証券コード：6513

2021年3月期通期決算及び2022年3月期通期業績予想



- 21/3期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり大幅な減収減益
- 22/3期通期業績予想は、売上では前期比21%増

間々田工場 6号棟CR設備売却・設備撤去



間々田工場 6号棟排水処理施設解体



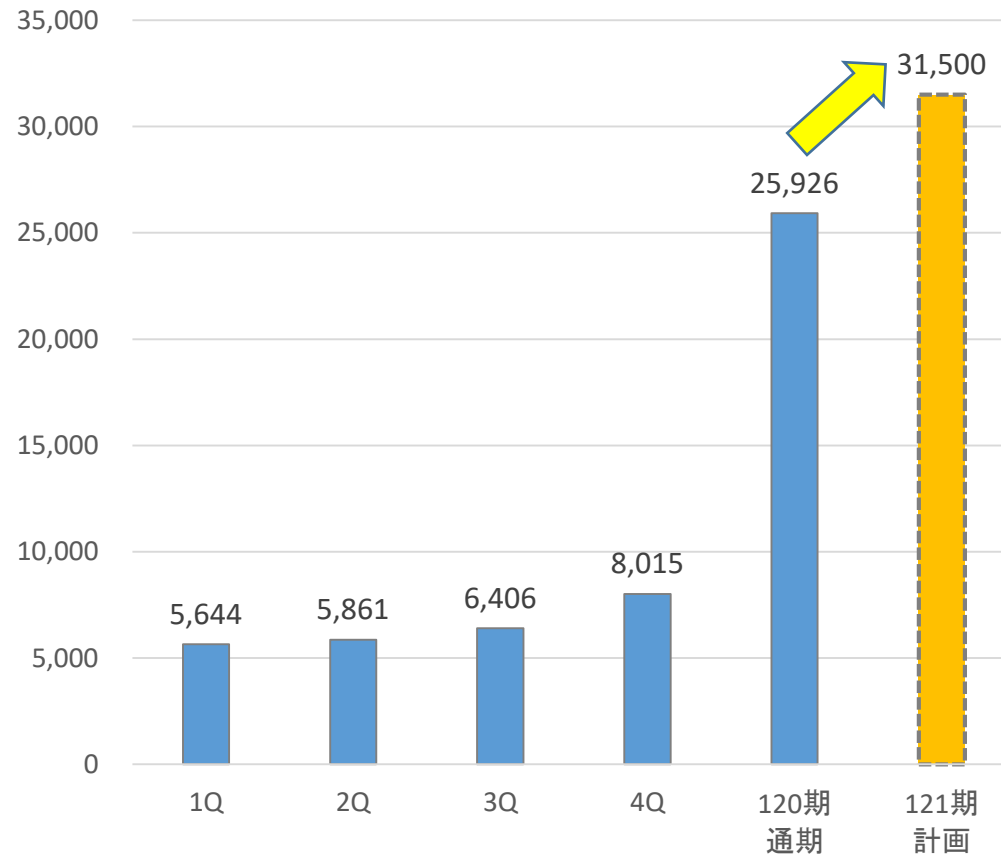
本社機能統合



2021年3月期通期決算四半期毎詳細

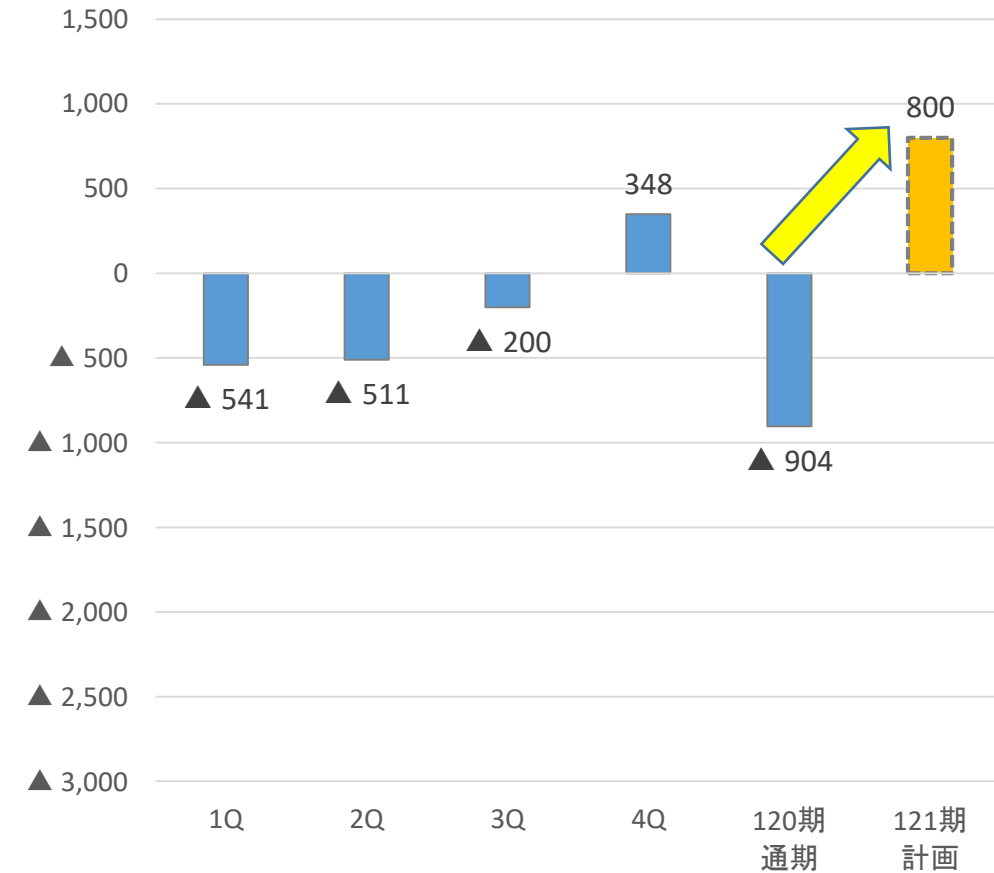
(単位：百万円)

連結売上高



(単位：百万円)

連結営業利益



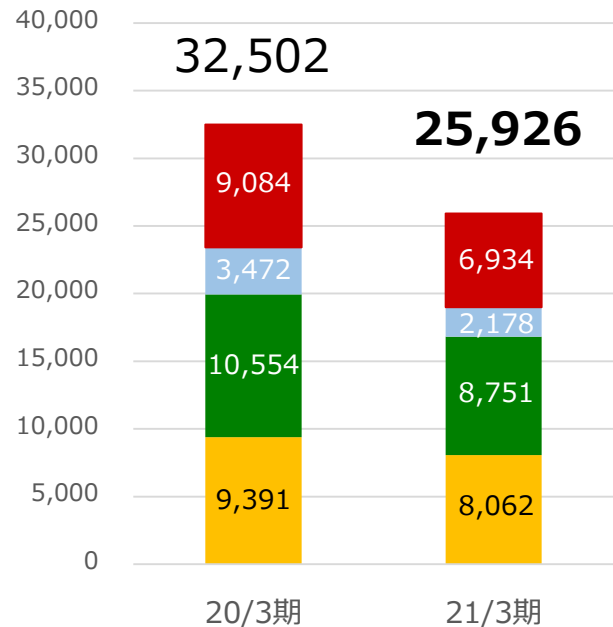
連結業績

	20/3期	21/3期	(単位：百万円) 前期 増減率
売上高	32,502	25,926	▲ 20.2%
営業利益	904	▲ 904	—
経常利益	1,100	▲ 518	—
親会社株主に帰属する当期純利益	224	▲ 1,156	—
		(単位：円)	
1株当たり当期純利益	35.09	▲ 184.72	

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により 4 事業とも大幅な減収減益
加えて、特別損失 4 億 1 千 5 百万円計上
- ・ 本社さいたま新都心オフィスの本社事業所への統合に伴う移転損失引当金繰入額
 - ・ 希望退職者募集の実施による特別退職金
 - ・ コンポーネント事業のパワーデバイスの子会社も含めた生産設備等の減損損失

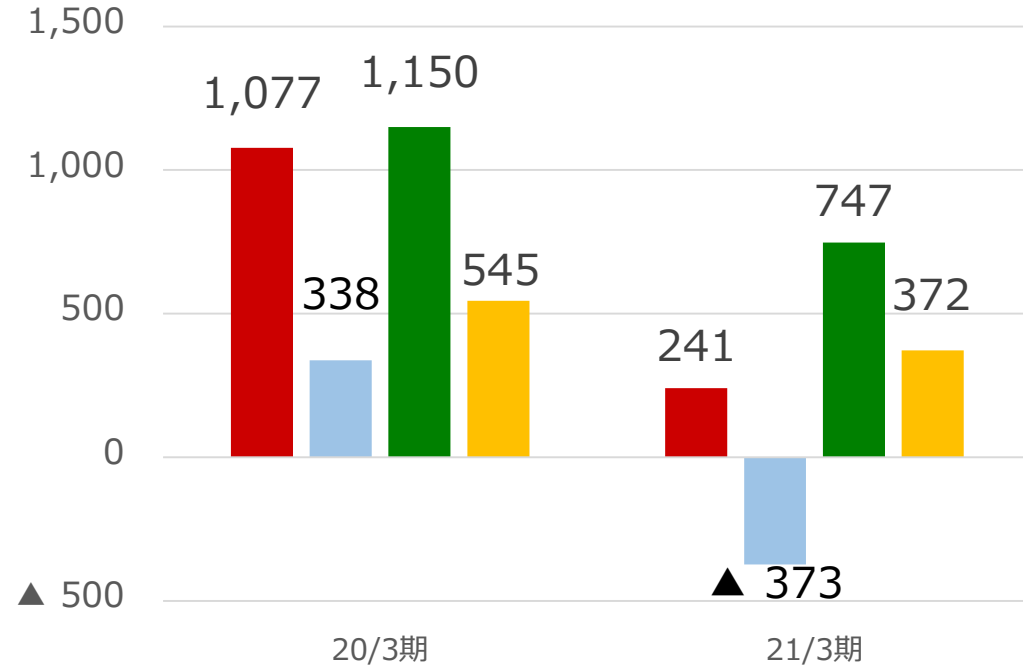
セグメント別売上高、セグメント別利益

(単位：百万円) セグメント別売上高



■エレ (事) ■メカ (事) ■ケミ (事) ■コンポ (事)

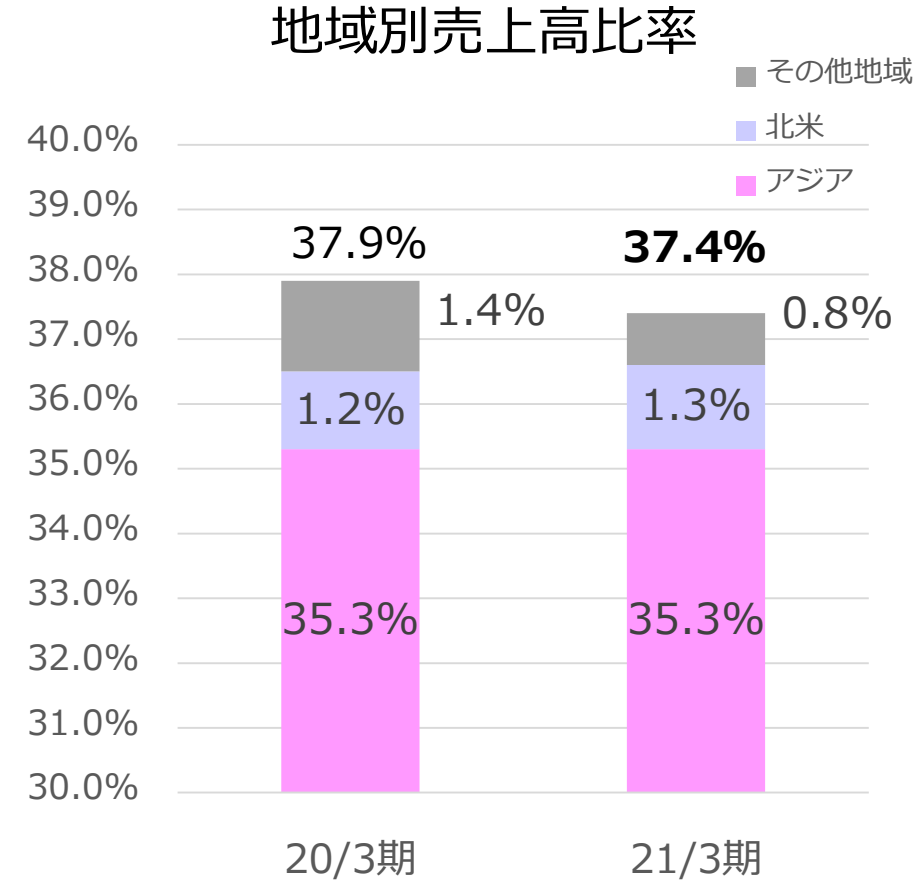
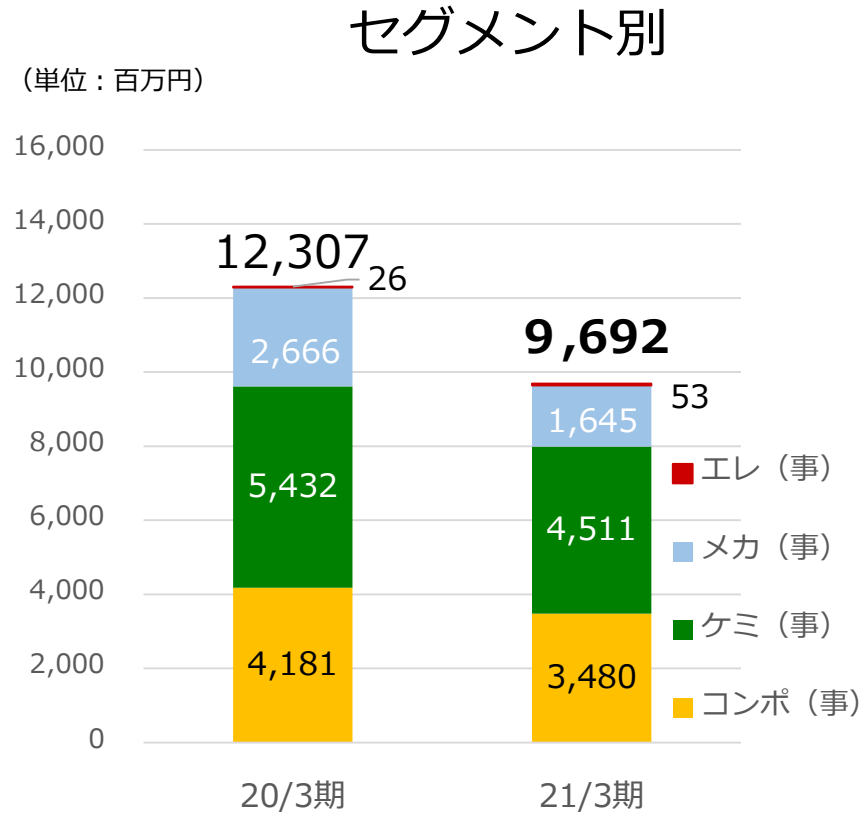
(単位：百万円) セグメント別利益 (全社費用配賦前)



■エレ (事) ■メカ (事) ■ケミ (事) ■コンポ (事)

- エレ (事) : 注力製品である医療用や半導体製造装置用などの高圧電源は堅調に推移したが、携帯端末向け無線基地局用電源が大幅に減少し減収減益
- メカ (事) : ウェアラブル市場へ参入し成果あげるも、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外で設備投資抑制が続く、大幅な減収減益
- ケミ (事) : 新型コロナウイルス感染症の影響や半導体調達難に伴う自動車メーカーの減産、化粧品分野のインバウンド需要の低迷等により、大幅な減収減益
- コンポ (事) : 新型コロナウイルス感染症の影響もあり医療機器向け半導体製品が堅調に推移し、第4四半期より装置産業向けや事務機器関係向けにおいて復調気配があったが通期では大幅な減収減益

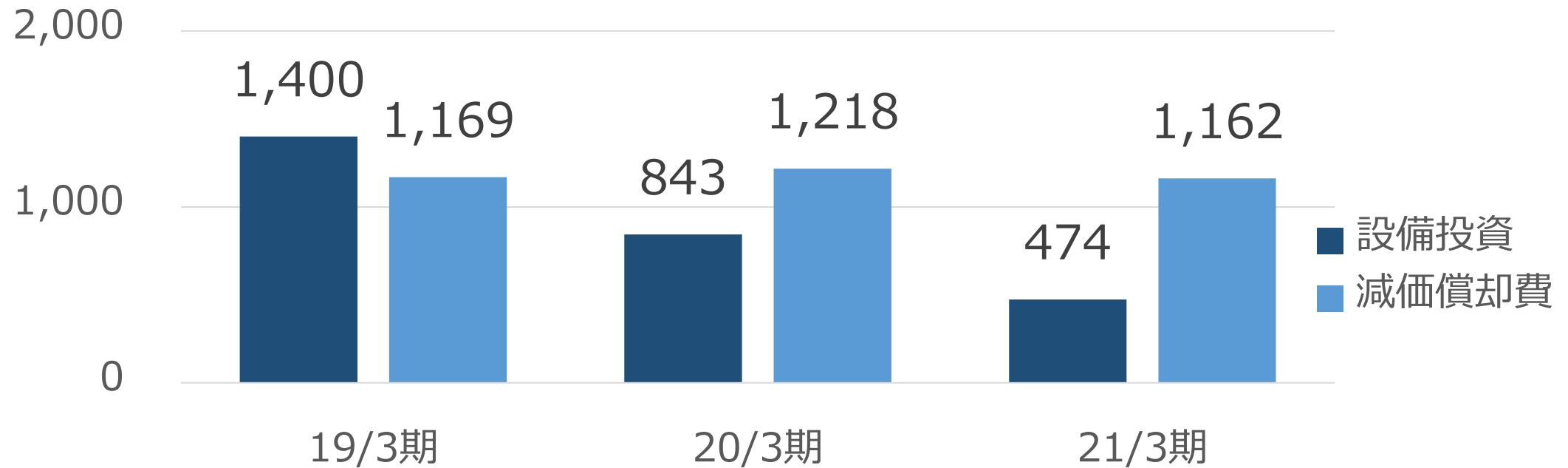
海外顧客向け売上高（セグメント別・地域別）



- 前期、海外顧客向け連結売上高を押し上げていたメカトロニクス事業のMDB売上及び海外子会社の売上減少により、海外顧客向け売上高が減少

設備投資、減価償却費

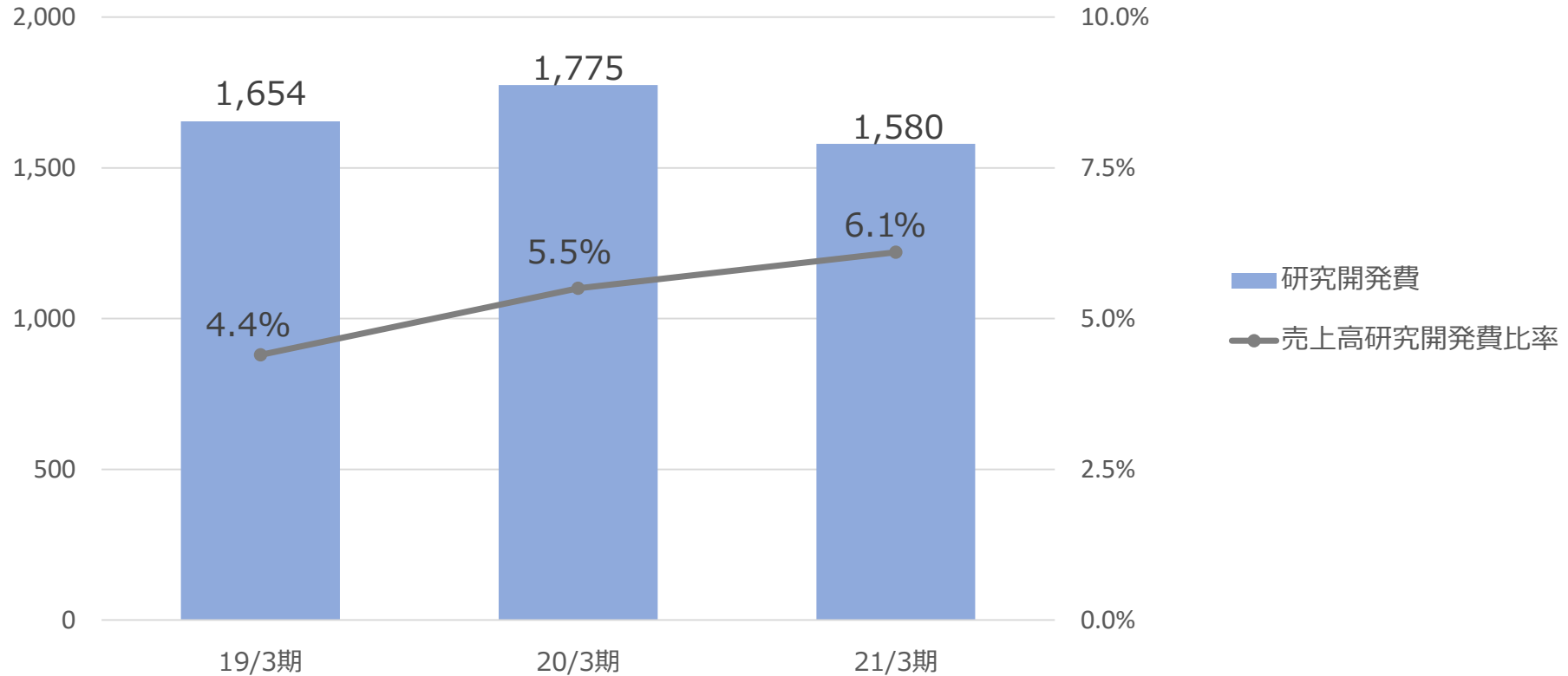
(単位：百万円)



- 19/3期 主な設備投資
 - ・コンポーネント事業の製造装置増強
 - ・旧本社工場跡地に付随する土地購入
- 20/3期 主な設備投資
 - ・コンポーネント事業の製造設備増強及びメカトロニクス事業の実験機製作
- 21/3期 主な設備投資
 - ・メカトロニクス事業の実験機製作及びケミトロニクス事業の製造設備更新

研究開発費、売上高研究開発費比率

(単位：百万円)



- 21/3期 人員は前期並みも人件費減少により、前期比1億9千5百万円減少
- 売上高減少に伴い、売上高研究開発費比率は0.6%増加

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	20/3期 期末	21/3期 期末	前期末 増減額
流動資産合計	26,704	23,943	▲ 2,760
固定資産合計	17,695	16,949	▲ 745
資産合計	44,400	40,893	▲ 3,506
流動負債合計	9,330	8,223	▲ 1,107
固定負債合計	10,190	9,104	▲ 1,085
負債合計	19,521	17,328	▲ 2,193
純資産合計	24,879	23,565	▲ 1,313
負債純資産合計	44,400	40,893	▲ 3,506
自己資本比率	50.0%	51.8%	1.8%

- 流動資産減少の主な要因：現金及び預金 11億8百万円減少、棚卸資産 8億6百万円減少
- 流動負債減少の主な要因：仕入債務 6億8千4百万円減少
- 固定負債減少の主な要因：退職給付に係る負債 5億1千6百万円減少

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

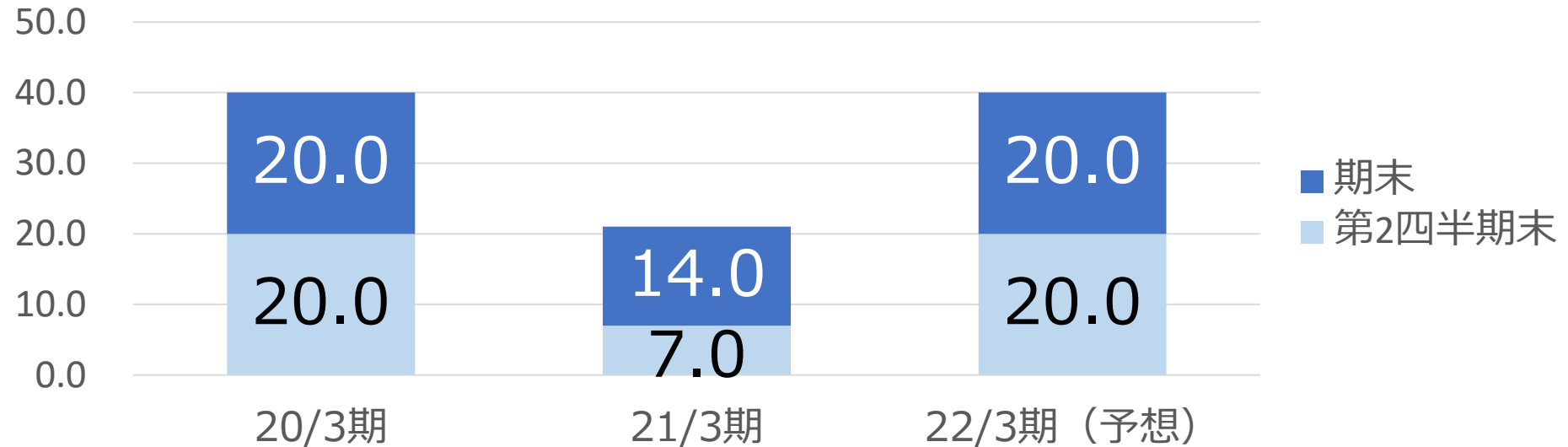
	20/3期	21/3期	前期 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	239	▲ 488	▲ 727
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,410	91	▲ 4,318
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 4,338	▲ 1,325	3,012
現金及び現金同等物の増減額(▲減少)	290	▲ 1,689	▲ 1,980
現金及び現金同等物の期末残高	6,711	5,021	▲ 1,689

主たる要因

- 営業活動によるCF：仕入債務の減少、税金等調整前当期純利益の減少
- 投資活動によるCF：投資有価証券の売却による収入
- 財務活動によるCF：長期借入金の返済、非支配株主への配当金の支払、自己株式の取得

配当の状況

(単位：円)



- 21/3期 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等から大幅な損失を計上したが、安定的かつ継続的な配当の観点から、中間配当金1株7.0円を実施。期末配当金を1株14.0円とし、6月の株主総会に付議
- 22/3期 業績見通し、外部環境の変化などを総合的に勘案し、1株40.0円（中間・期末とも20.0円）を予定（予想）

<自己株式の取得>

2020年2月12日決議	400,000株（上限）	500百万円（上限）	取得期間2020年2月13日～2021年1月29日
取得終了	212,200株	287百万円	

連結業績予想

(単位：百万円)

	21/3期 実績	22/3期 予想	前期 増減率
売上高	25,926	31,500	21.5%
営業利益	▲ 904	800	—
経常利益	▲ 518	1,100	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 1,156	600	—

- 2022年3月期の連結業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合がある

技術開発の方向性について

1. 技術開発の方向性

- ・経営理念／中期経営計画のビジョン
- ・研究開発の方向性
- ・研究開発体制、研究開発費

2. マーケットインの研究開発強化

- ・自動車関連技術の見える化、営業・技術開発の強化

3. 全社的なイノベーション推進に向けた取り組み

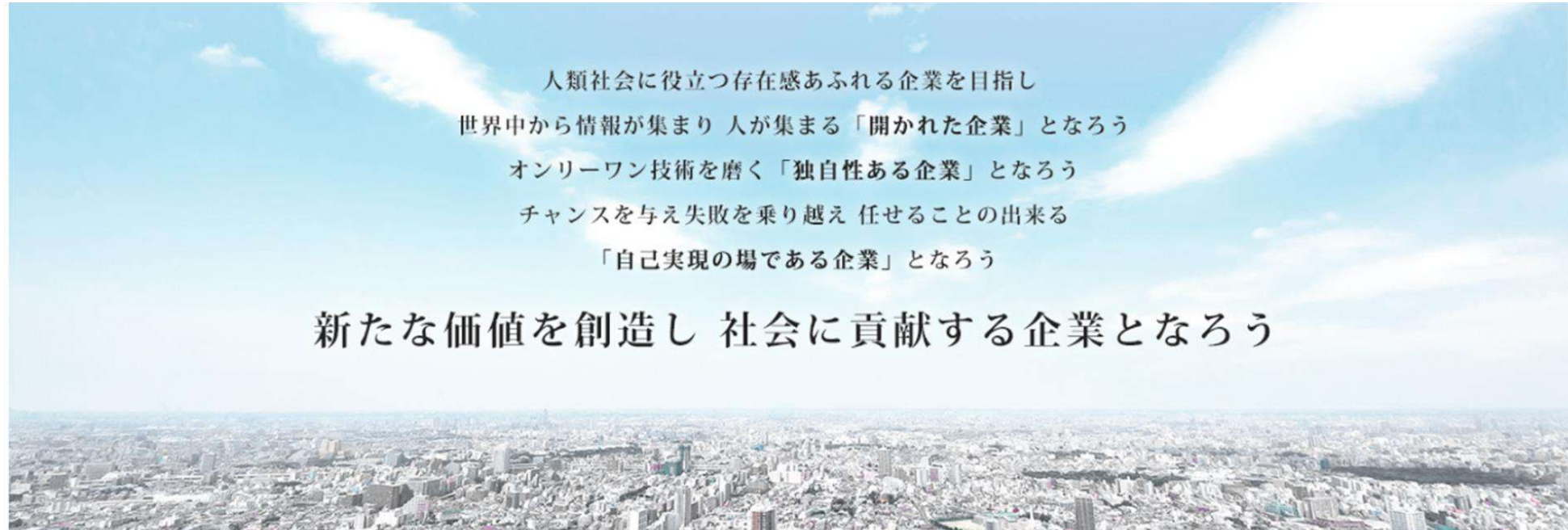
- ・DX推進プロジェクト
- ・コア技術の強化・発信
- ・オープンイノベーションと社内提案制度の試行

4. 最近の研究開発事例（研究開発本部）

5. 研究開発によるSDGsへの貢献

1. 技術開発の方向性

経営理念／中期経営計画のビジョン



グループ全体による『斬新なアイデア』と『きらりと光る技術力』で、新たなソリューションを提供できる企業を目指します

NEWオリジン NEWステージ

1. 技術開発の方向性 研究開発の方向性



顧客価値向上を目指して、取り組みを加速

新規事業創出に向けた営業、事業部を含めた体制構築

➡ DX推進プロジェクトの推進、新規事業・新技術開発テーマ提案制度の試行

マーケットインの研究開発強化

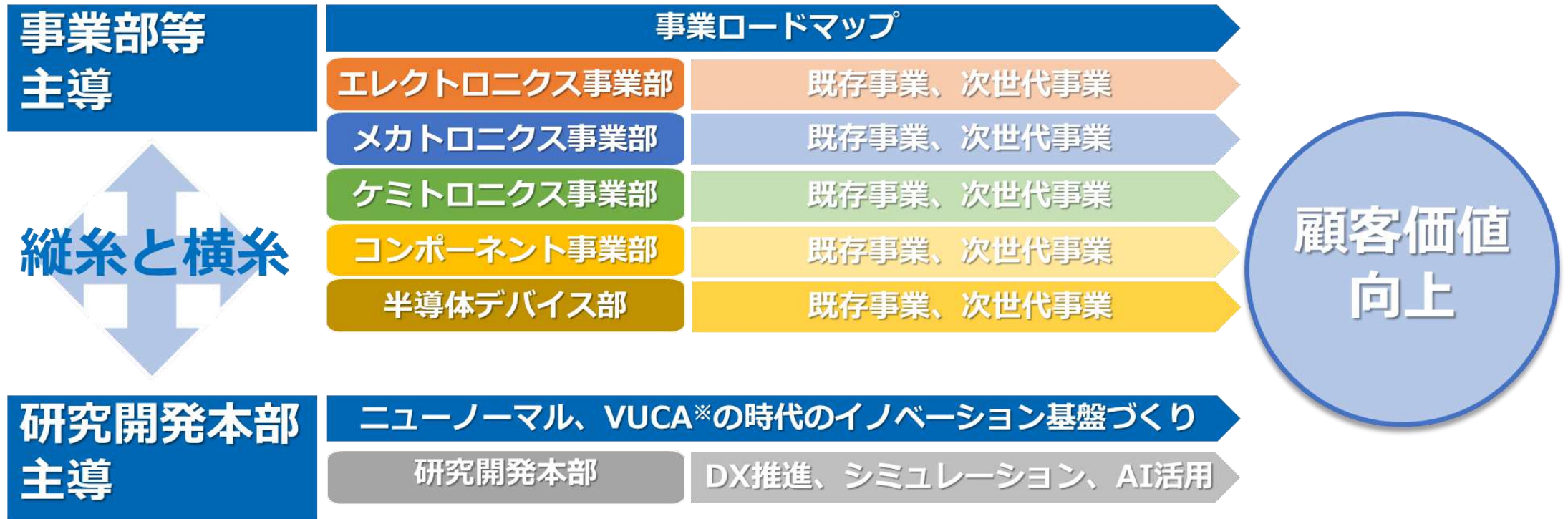
➡ 全社自動車関連技術の見える化、営業・技術開発の強化

素材・部品分野、ソリューション分野の技術開発を強化

➡ 大学との共同研究 & DX/シミュレーション技術の強化による生産性・付加価値向上

1. 技術開発の方向性 研究開発体制について

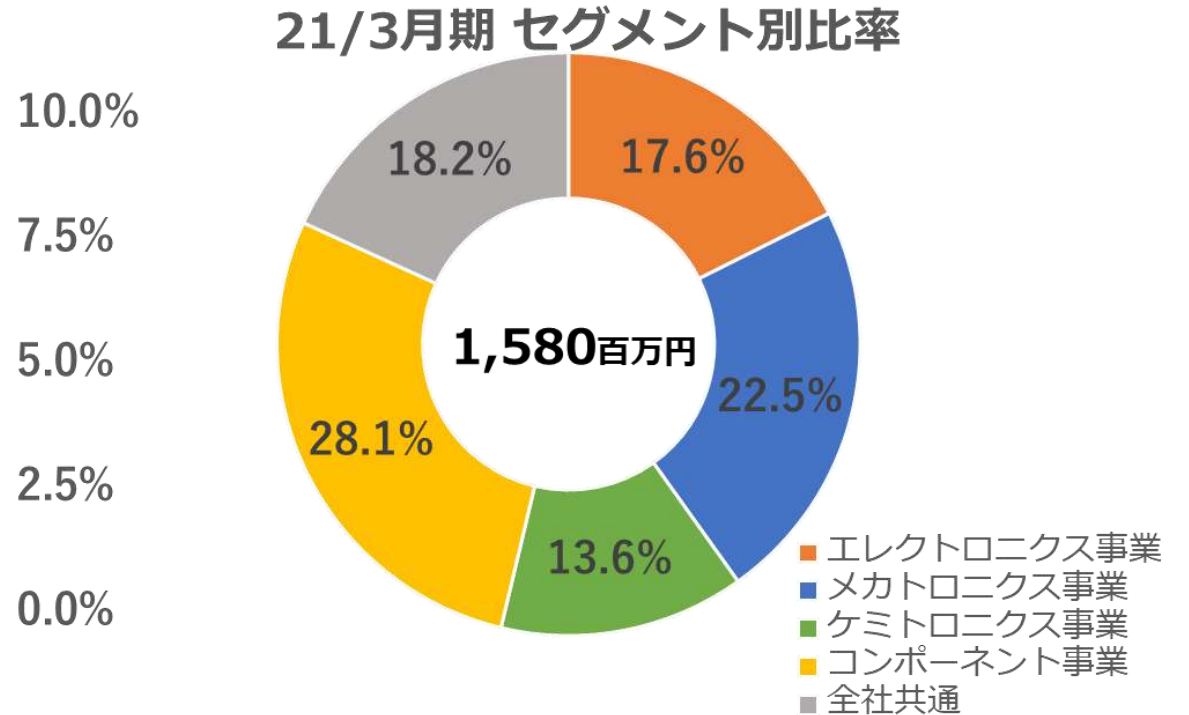
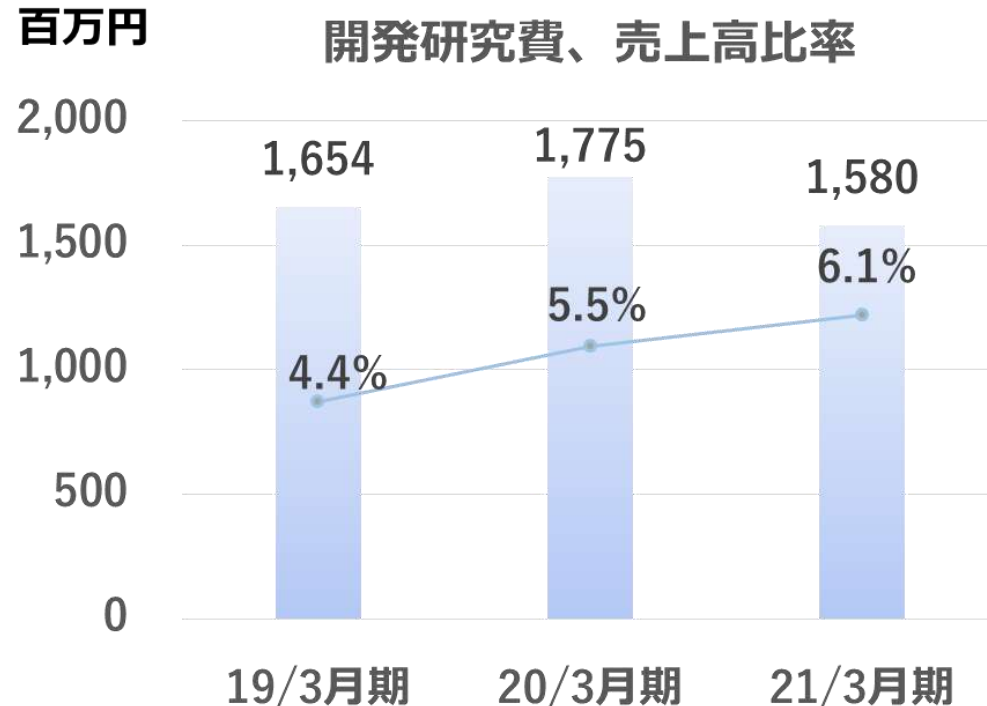
- ・ 事業ロードマップに基づいた事業部の着実な研究開発
- ・ 技術開発動向を踏まえた全社R&D戦略と基盤的研究開発



※ **VUCA** : Volatility (変動)、Uncertainty (不確実)、Complexity (複雑)、Ambiguity (曖昧) の頭文字をつなぎ合わせた造語で、これら四つの要因により、現在の社会経済環境が
きわめて予測困難な状況に直面しているという時代認識を表す言葉

1. 技術開発の方向性 研究開発費について

- ・ コロナ禍で売上高が減少するも、一定規模の研究開発費を確保し、売上高比率は上昇
- ・ 各分野、基盤研究にバランスよく配分



コンポーネント事業は、半導体デバイス部を含む

2. マーケットインの研究開発強化

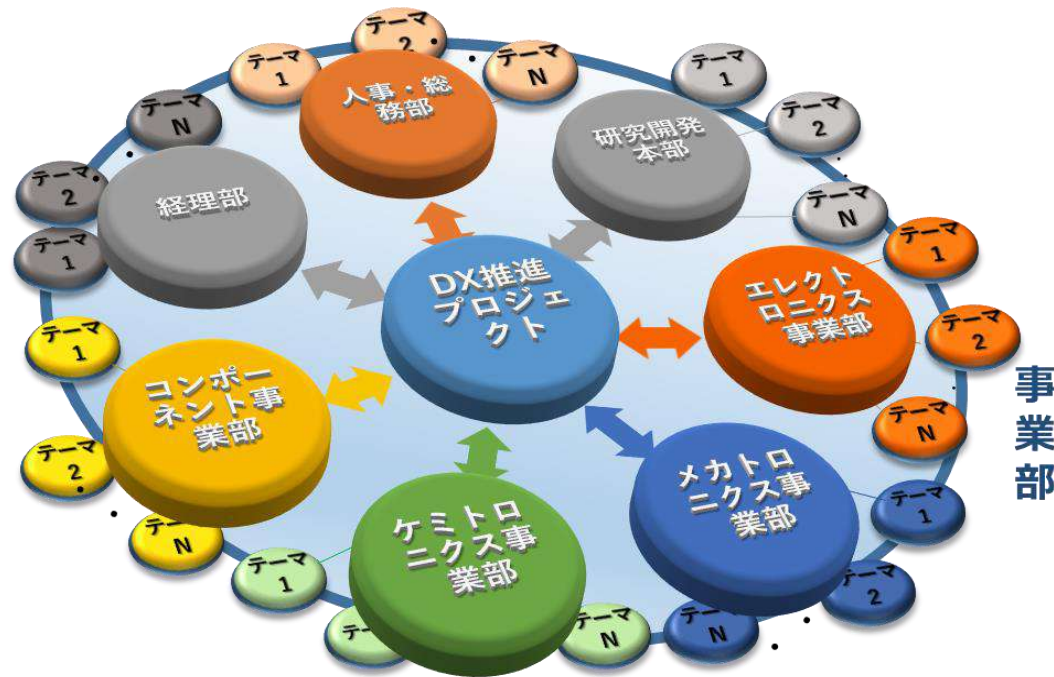
自動車関連技術の見える化、営業・技術開発の強化

・ 素材、部品から（製造）装置まで、幅広い技術領域と実績 （後ほど映像をご覧ください）



3. 全社的なイノベーション推進に向けた取り組み DX推進プロジェクト

- ・ DXを活用した業務プロセス抜本改革、新規事業創出
- ・ 顧客価値向上に向けあるべき姿を検討し、短期・長期のテーマを設定



DX推進プロジェクトのイメージ
(2020年9月より活動開始)



取り組み領域と目標

3. 全社的なイノベーション推進に向けた取り組み コア技術の強化・発信

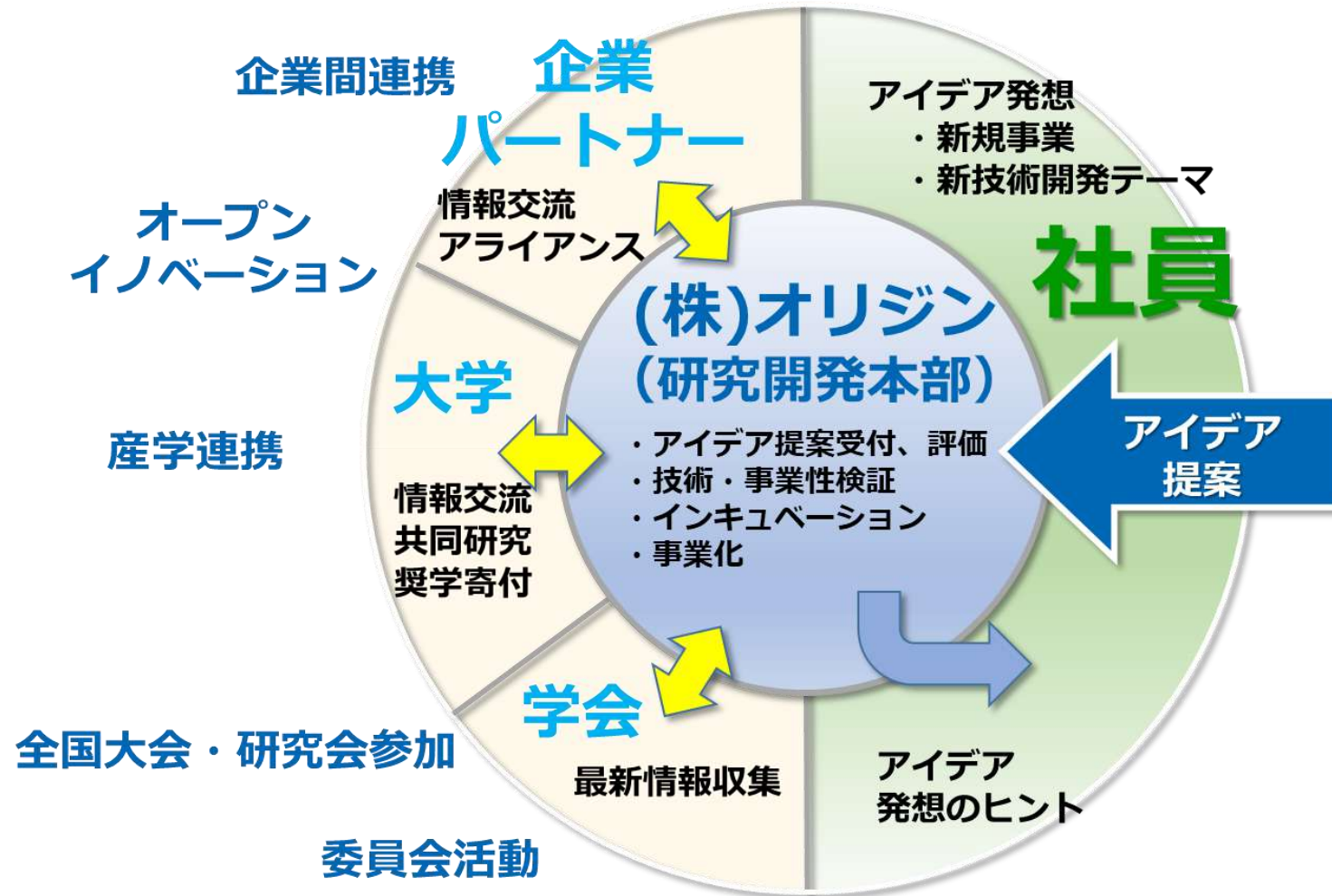
- ・ 材料、デバイス、機構部品から機器、製造装置にいたる幅広い技術群
- ・ Web発信とオープンイノベーションを活用して社会的課題解決に貢献

DXによる進化と深化



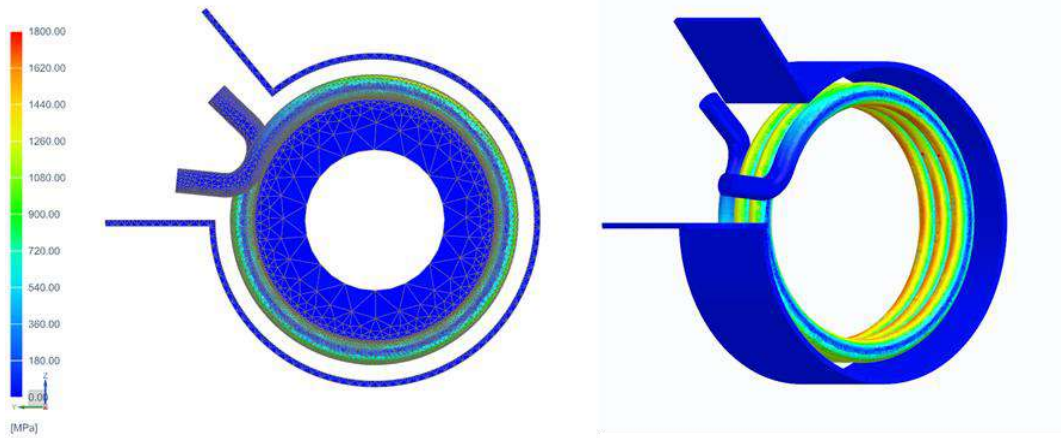
3. 全社的なイノベーション推進に向けた取り組み オープンイノベーションと社内提案制度の試行

イノベーションの種を幅広く集める仕組みとして社内提案制度を試行



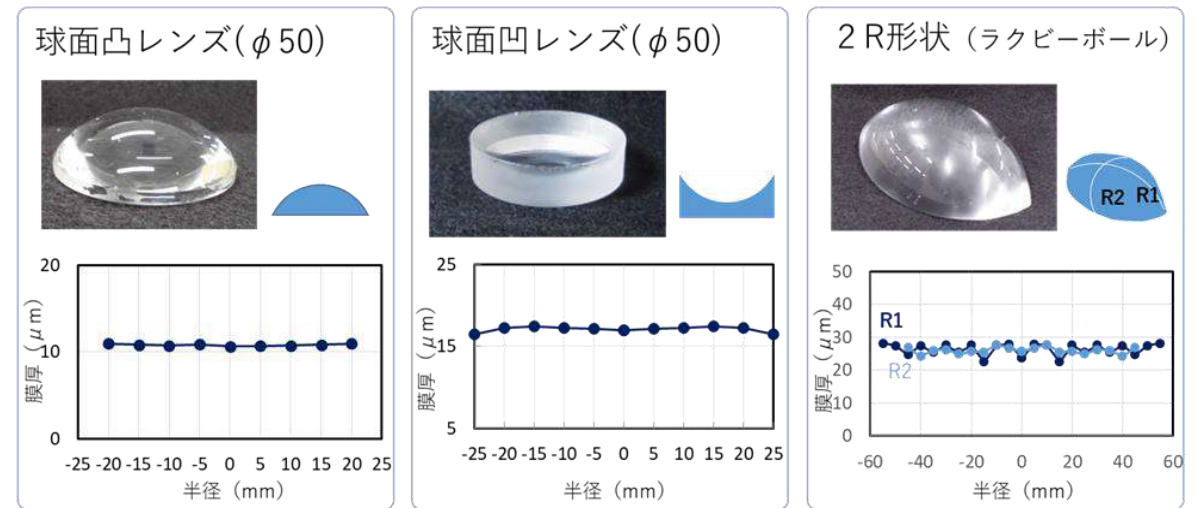
4. 最近の研究開発事例（研究開発本部）

- ・トルクリミッタのシミュレーションによる挙動解析
- ・様々な曲面物へのスピンコーティングによる均一膜形成



内輪回転時に発生する応力分布

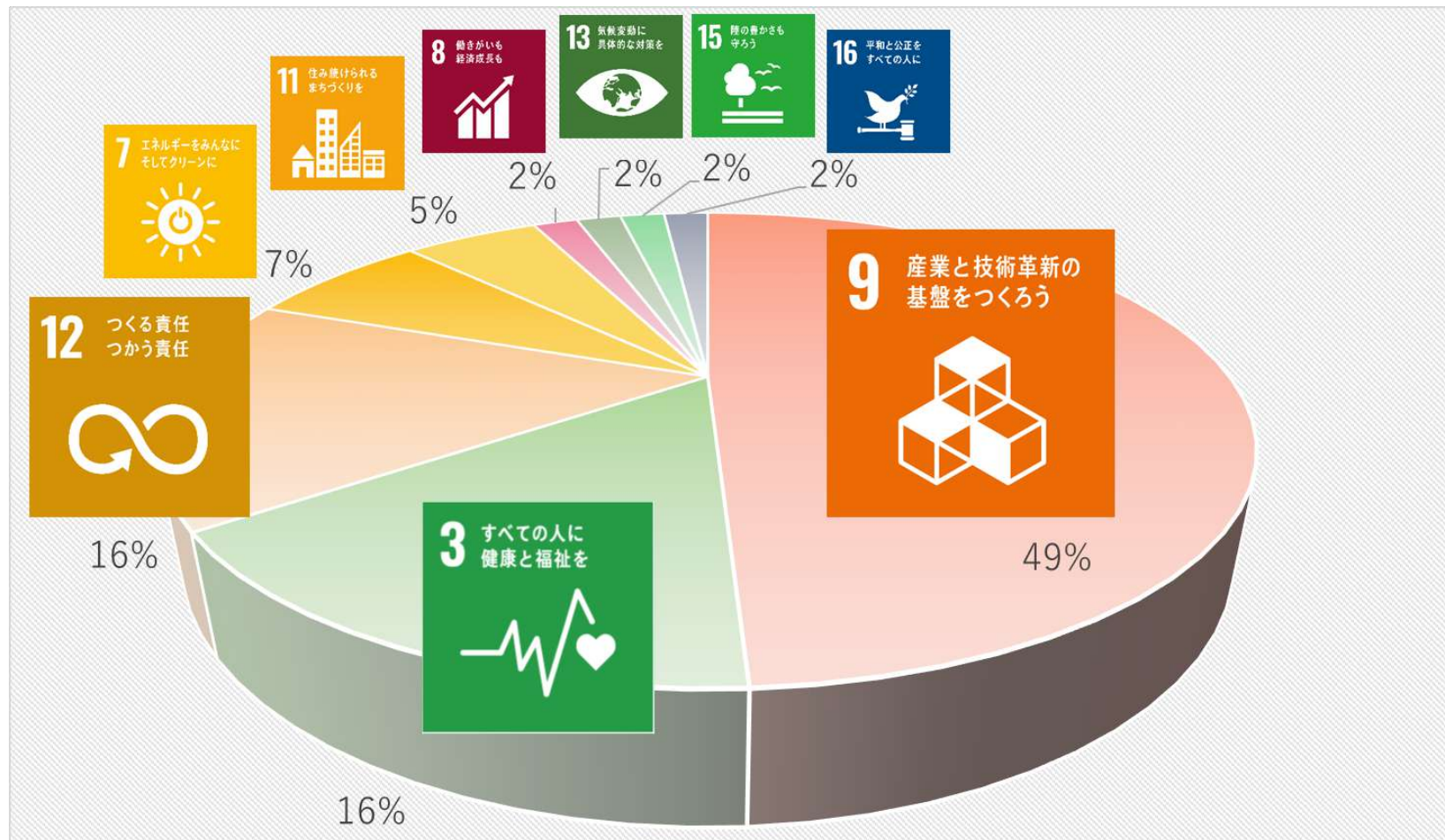
トルクリミッタの挙動解析
(オリジンテクニカルジャーナルNo.81 (2018) II-8)



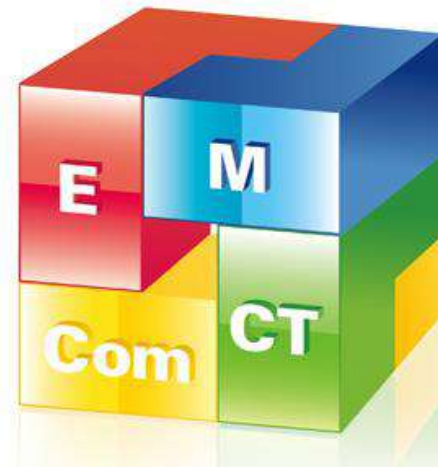
曲面サンプルへの均一膜形成
(オリジンテクニカルジャーナルNo.83 (2020) III-13)

5. 研究開発によるSDGsへの貢献

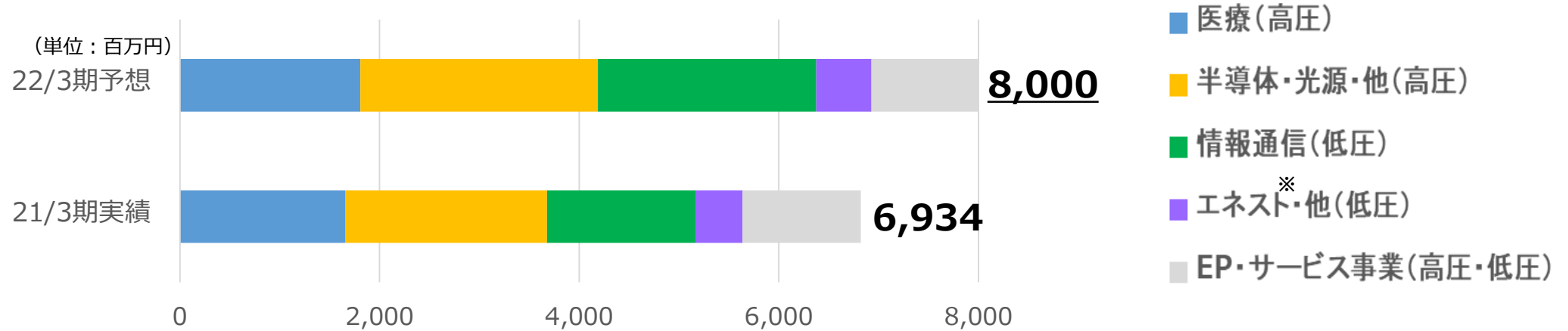
「産業と技術革新」「健康と福祉」「脱炭素」等の技術開発で貢献



セグメント別



連結売上高



21/3期 連結売上高概況、重点施策進捗

- 前期比26.7%減
- ■医療診断用や ■半導体製造装置用などの高電圧電源が堅調に推移（新型コロナウイルス感染症の影響で需要増）
- ■携帯端末向け無線基地局用電源が減

22/3期 連結売上高計画

80億円

22/3期 重点施策計画

- 市場優位性ある高圧電源技術に注力
 - 医療用診断市場向け電源の新製品開発加速
 - 半導体製造装置用電源の拡販活動推進
- ■エネスト市場への参入
- 構造改革の推進（基礎技術、生産体制）

高圧事業領域の拡充

➤ ■ 医療診断用X線電源（医療市場）

一般撮影用に加え、外科用・回診車用など製品
ラインナップを充実し売上に貢献



例）医療診断用装置

➤ ■ 半導体製造装置用電源（半導体市場）

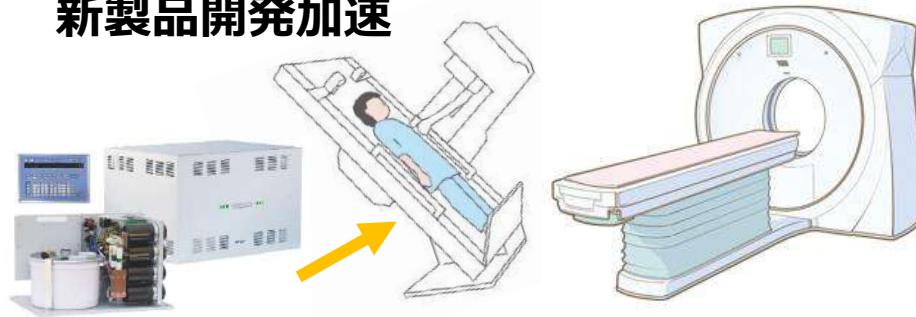
フォトリソマスク成形、成膜、露光、エッチング、検査
装置用の電源において市場需要に対応し売上に貢献



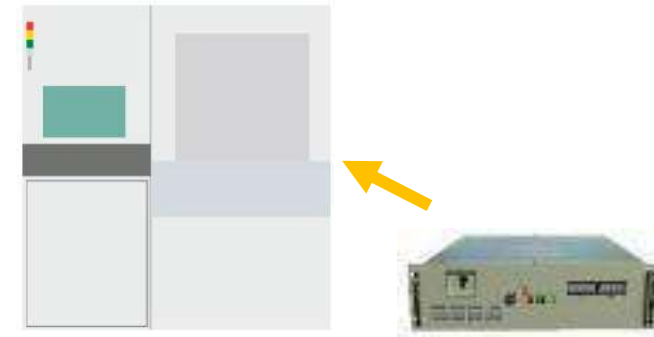
例）半導体用製造装置

中長期的な新規事業へのチャレンジ

- ■ 医療用診断市場向け電源の新製品開発加速

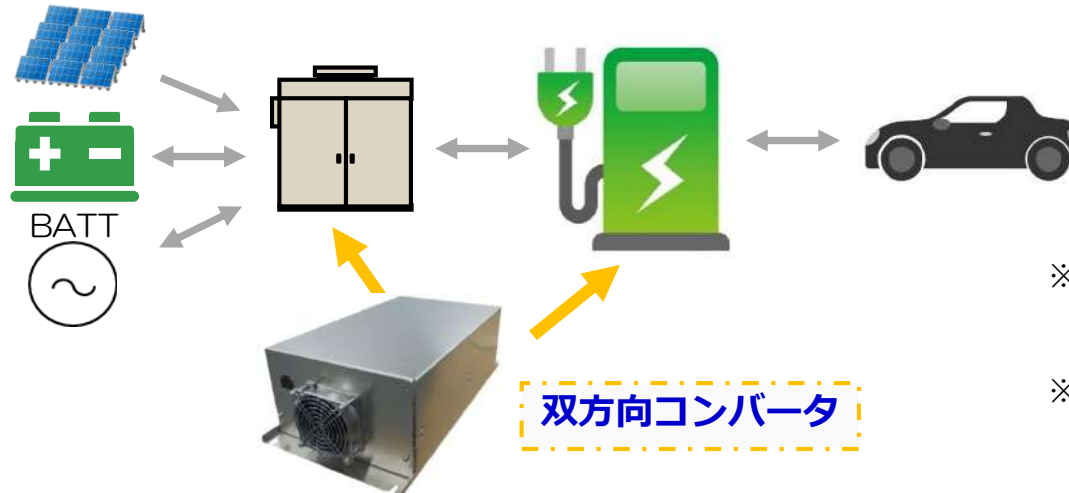


- ■ 半導体製造装置用電源の拡販活動推進



半導体製造装置用電源

- ■ エネスト市場への参入（V2H/V2Gなど）



- ※V2H
電気自動車に蓄えられた電力を家庭用に有効活用する方法
- ※V2G
次世代自動車の蓄電池を電力系の蓄電池として利用する方法

メカトロニクス事業



21/3期 連結売上高概況、重点施策進捗

- 前期比37.3%減
- ■CSW：中国の5G関連需要拡大により売上増
- ■OLB：MDB/DBの貼合技術をウェアラブルへ展開
- コロナ禍の影響を大きく受けるも、中国生産、中国立上体制が生産性の向上に寄与

22/3期 連結売上高計画

45億円

22/3期 重点施策計画

- 売上高底上げ：拡販強化（■OLB, ■DB, ■CSW）
- 競争力強化：高付加価値化・生産性向上
- 新規市場の開拓：123期売上に寄与

※ **CSW**(Cap Seal Welder;光半導体用溶接機), **RMW**(自動車部品用大型溶接機), **MDB**(Mobile Display Bonder),車載・産業用**DB**(Display Bonder), **OLB** (Optical Lens Bonder;光学レンズ貼合せ装置), **VSM**(真空ソルダリングシステム)

メカトロニクス事業 21/3期重点施策進捗詳細



【拡販強化】

➤ ■CSW

中国における5G関連の光通信モジュール需要拡大のもと、海外生産推進によるコスト低減、及び短納期化を実現し、売上増（前期比353%増）



CS3-2.1



PIXTA

【拡販強化】

➤ ■OLB

MDB/DBで培った貼合技術をレンズ貼合に展開、120期よりウェアラブル市場において売上に寄与



【生産性向上】

➤ 海外生産*中国

- ・中国現地生産体制確立
計画的な生産による短納期対応とコスト低減を実現
- ・現地立上/サポート体制構築
コロナ禍においても滞りない現地据付で貢献



PIXTA

メカトロニクス事業 22/3期重点施策計画詳細



【市場別戦略による販売強化への取組み（注力市場と市場動向）】

➤ ■ OLB

現行のIT機器を代替するモバイル端末として期待され、
立ち上がりが見込まれるウェアラブル市場
➡メカトロニクス事業部の基幹事業のひとつとして捉え、
製品化を進め、本市場での深耕を図り、拡販



出典:「AR/VR関連市場の将来展望2020」(富士キメラ総研)

➤ ■ DB

採用拡大が見込まれる車載・産業用ディスプレイ市場
➡大型化やマルチディスプレイ等、多様化する市場
要求に応え、日本・中国・アジア・欧州で実績拡大
➡欧州拠点整備への取り組み



出典:2020-2021年版 車載用ディスプレイ市場の現状と将来展望(矢野経済研究所)

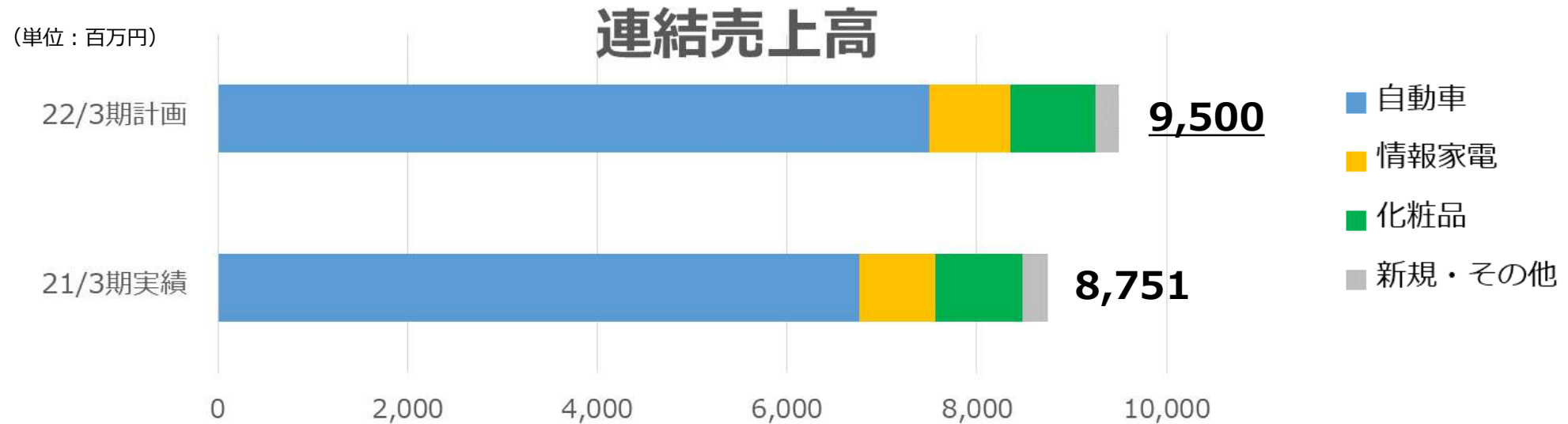
➤ ■ CSW

中国における急速な展開見せる5G関連市場
➡高精度化とコスト低減の取組みを継続し、拡販推進
➡光通信用途以外にも期待



出典:2020年版 5G関連デバイスの現状と展望(矢野経済研究所)

ケミトロニクス事業



21/3期 連結売上高概況、重点施策進捗

- 前期比17.1%減の8,751百万円
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響
 - ・ 半導体調達難に伴う各自動車メーカーの減産
 - ・ ■化粧品分野のインバウンド需要の低迷
- 機能性塗料拡販継続：新市場にて案件内定
- ■自動車市場・新規市場拡販：趣味娯楽市場拡大
- 原価低減活動：プロジェクトチーム活動継続

22/3期 連結売上高計画

95億円

22/3期 重点施策計画

- ■自動車市場のシェア拡大：環境対応塗料のブラッシュアップ、ADAS※・EV関連機能性塗料
- 新規市場での柱の創出：機能性塗料の拡充拡販
- DXプロジェクト推進：製造・生産技術・品質管理の体制強化と利益向上

ケミトロニクス事業

21/3期重点施策進捗詳細



➤機能性塗料拡販継続

- ・新市場にて案件内定（放熱塗料を鉄道車両に採用内定）
- ・水系塗料、省エネルギー 2 液塗料などの引合拡大
→ 今後のSDGs・低炭素需要に向け、拡販活動を拡大
- ※ 省エネルギー2液塗料 … 従来の2液塗料に比較し、乾燥に要する熱量が少ないため、乾燥設備の排出CO₂量削減に貢献可能

乾燥条件 = 従来 : 80℃×30min → 省エネルギー塗料 : 60℃×10min

必要熱量(J)66~77%の削減を期待

※計算値、ABS素材への塗装、塗装物温度20℃からの乾燥開始にて

➤ ■自動車市場・新規市場拡販

- ・自動車部品市場シェア維持
- ・ADAS向け部品案件獲得
- ・スポーツ関連市場にて売上拡大



➤原価低減活動

- ・原価低減タスクフォースチームにて生産効率化案策定。今期実行予定

➤ ■ 自動車市場のシェア拡大

- ・ より競争激化する自動車市場内のシェア維持・拡大のため、環境対応塗料のラインナップを強化し、顧客ニーズに対応
- ・ ADASや電気自動車（EV）技術に向けた、機能性塗料の製品充実
- ・ SDGs・低炭素需要に向けた、省エネルギー塗料等の拡販活動実施

➤ 新規市場での柱の創出

- ・ 新規市場での柱の創出のため、機能性塗料の開発・拡充・拡販

➤ DXプロジェクト推進

- ・ プロジェクトチームを前期より発足。今期も継続して活動を行い、製造・生産技術・品質管理の効率化、体制強化と利益向上を目指す



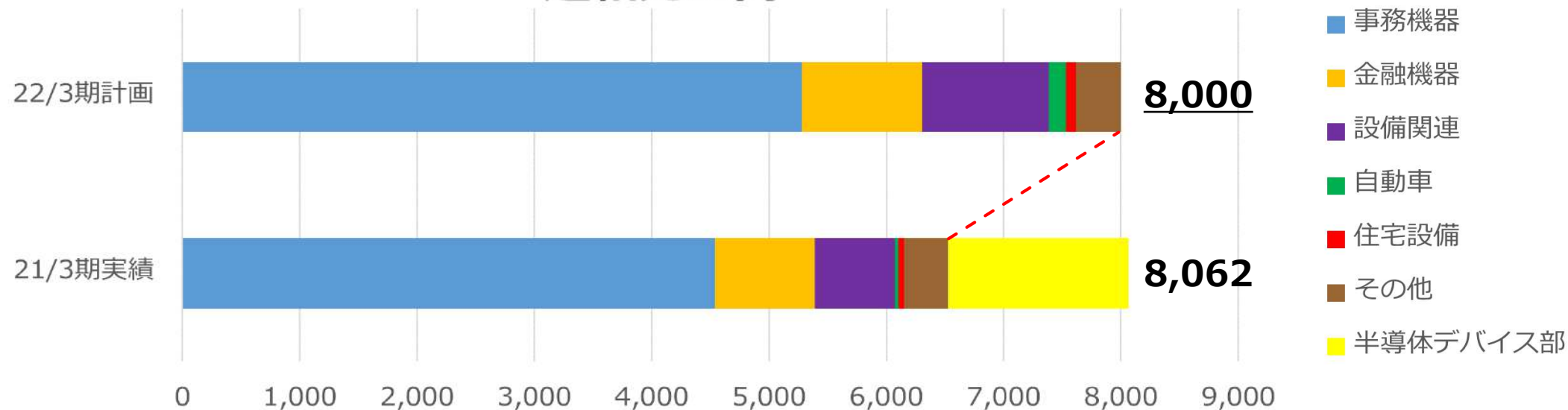
コンポーネント事業



※コンポーネント事業の半導体デバイスは、2021年4月1日より半導体デバイス部として独立

(単位：百万円)

連結売上高



21/3期 連結売上高概況、重点施策進捗

- 前期比14.1%減
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響に因り主力の■事務機器市場向け製品の売上減
- 精密機構部品の■自動車市場での採用増加
- 高圧市場の■医療関係は増加

22/3期 連結売上高計画

80億円（精密機構部品）

22/3期 重点施策計画

- ■事務機器・■金融機器の深耕開拓及び原価低減
- ■設備関連市場への供給体制整備
- ■自動車市場への本格参入（品質体制構築）

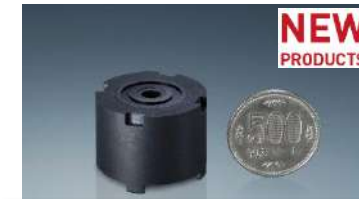
コンポーネント事業

21/3期重点施策進捗詳細（精密機構部品）



➤ 新市場（■自動車市場）での採用

- ・ターゲット市場として取り組んできた自動車市場での引合い案件増加。安全機構のニーズが高まる中で、長年培った摩擦制御技術が評価され、121期より本格的に参入を開始
- ・自動車市場に適合した生産体制・品質体制の構築を図る一環で、IATF※認証取得へ向けた活動を推進



2段式トルクリミッタ



小型高トルクリミッタ

➤ 海外市場へのマーケティング活動強化

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により人的移動が困難な状況の中で、WEB展示会などデジタルマーケティングを活用し欧州・米国・中国を中心とした海外市場への拡販活動に注力
- ・併せて、エリアパートナー戦略により、現地商社を活用した提案活動を強化し新規顧客を獲得

※ IATF (International Automotive Task Force; 国際自動車産業特別委員会)

コンポーネント事業

22/3期重点施策計画詳細（精密機構部品）



➤既存市場の深耕開拓 及び 原価低減による利益改善

- ・ ■ 事務機器市場では、深耕開拓と小型ローコスト製品による低速領域機種への新規参入による売上拡大
- ・ ■ 金融機器市場では、セルフレジなど金融機器関連需要の拡がりに対応し、複合製品の提案型営業による顧客の囲い込み
- ・ ■ 設備関連では、世界的な半導体需要の急増に伴う受注増加に対応し、サプライチェーンの再構築 及び 生産体制の強化
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で売上が大きく落ち込んだ中で取り組んだ損益改善施策の確実な実施による利益向上

➤新市場（■自動車市場）本格参入に向けた品質・生産体制を構築

- ・ 自動車用製品の採用拡大に向け、IATF認証取得（2022年目標）を含む自動車業界に適合した品質体制の構築
また、生産体制を早期に構築完了し、日程遅延なくオンタイム化
- ・ 採用実績を元に国内／外の横展開による売上拡大



コンポーネント事業

21/3期重点施策進捗詳細（半導体デバイス）



➤ 高圧ダイオード拡販

医療X線装置向けに新製品を投入

据え置き型X線装置向けが中心であった従来品に
対し、可搬型小型X線装置向けを開発

MD15FP3



8KV VA品
15KV 大電流品も開発中

NEW

MD15EP06



小径化(30%ダウン)
小電流化
コストダウン

➤ 車載向けマーケティング強化

ハイブリット車DC/DCコンバータへ搭載され続けるショットキーバリアダイオードモジュールは
抜群の品質安定実績をもって参入活動強化。国産車のみならず中国産EV向けの引合いあり

EV 電気自動車
Electric Vehicle



SOT-227



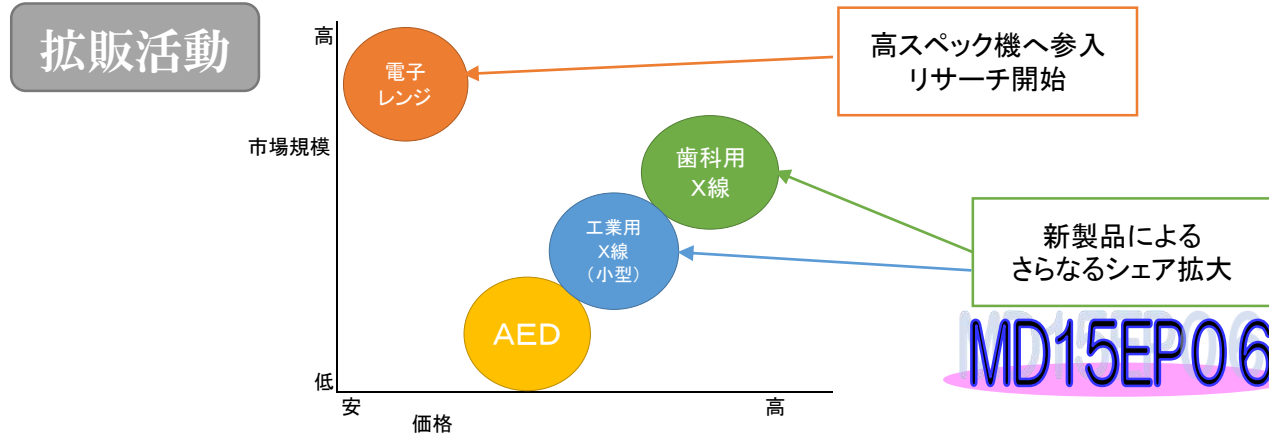
北海道オリジン(株)

半導体製造50年の実績

半導体デバイス事業 22/3期重点施策計画詳細



➤ 高圧ダイオード拡販（継続）



製品ラインナップ充実

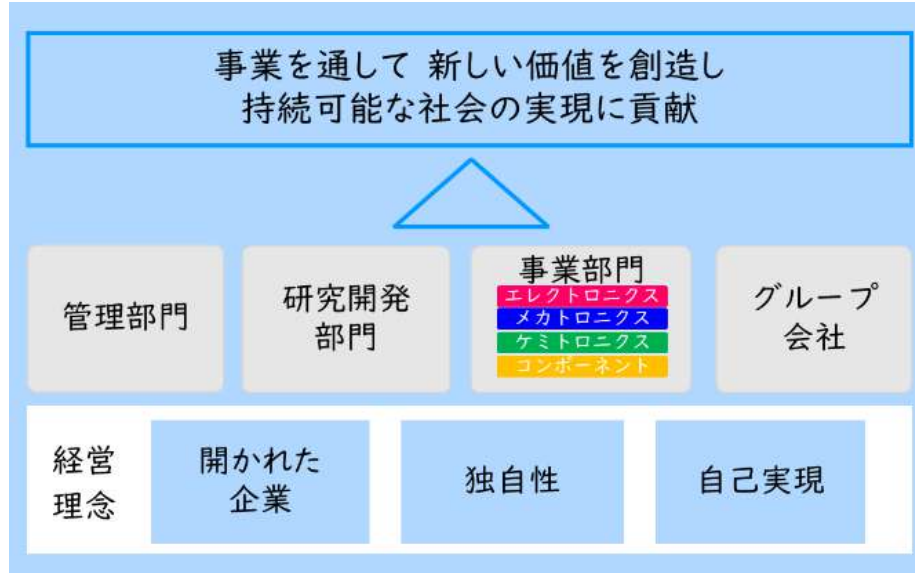
1	超高速、 <u>大電流化</u>	・10~15kV_500~700mA_50nsec ・既存 φ4.5*15L PKG
2	MD8CP5のVA <u>既存品</u>	・8kV_500mA_75nsec ・新規 φ4.4*7.6L PKG相当

➤ 車載市場・EV用急速充電機市場への参入活動

オートモーティブワールドはオンライン展示会へ出展。安定的品質レベルを武器に拡販目指す！



CSR



オリジンは、経営理念の実現と、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、グループ行動憲章に則り、社会課題の解決と当社グループの持続的な成長に向けて取り組んでいます。



-人と地球に快適な環境を提供-

遮熱塗料 赤外線反射機能の付与により太陽光からの熱をシャットアウト

東京ビックサイトの屋根（ガラス面）などに塗布（屋外施設・建築物などに塗布することで内部の温度上昇を抑制）

内部の温度上昇抑制は、電力消費の削減につながり、持続可能な社会の実現を積極的に推進しています。



アニメーション

研究開発本部および当社全体における自動車市場との取り組み
(約7分間)

- ◇当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ◇当資料に掲載しております情報は、2021年3月期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、
内容についていかなる保証を行うものではありません。
- ◇業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しています
ので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。
- ◇当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したも
のではありません。

————— プレス・アナリスト・機関投資家様 個別取材窓口 —————

株式会社オリジン

経営企画本部

TEL:048-755-9348